

20世紀のキリスト教神学は、 どのような方向に進んできたのか？

本書は、スイス出身のカトリック神学者ハンス・キュングが、宗教間対話に取り組む中で探求してきた「人間性」の意味を明らかにしようと試みている。

キュングは、20世紀の著名なキリスト教神学者の一人である。

諸宗教の相互理解を深めるために宗教間対話を推進した神学者として

知られており、世界の非キリスト教宗教と対話することを通して、

人間であることの神学的意味を解明しようとした。



目次

- 第一章 神の普遍救済とキリスト教信仰
- 第二章 「下からのキリスト論」と宗教間対話
- 第三章 「根元的な人間」としてのキリスト者
- 第四章 宗教の「パラダイム論」と「人間性」
- 第五章 「世界倫理」と「人間性」の社会的実現
- 第六章 「世界倫理」と「人間性」をめぐる諸問題
- 終章

ふじもと のりまさ
著者 藤本 憲正

早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、2018年同志社大学大学院神学研究科博士後期課程修了、博士(神学)。現在、国際日本文化研究センター、機関研究員。

主要業績、「ポール・F・ニッターの宗教間対話に関する一考察」、『基督教研究』第81巻2号(2019)ほか。

ハンス・キュング と宗教間対話

人間性をめぐる
その神学的軌跡

注文書	番線印	ハンス・キュングと宗教間対話 人間性をめぐるその神学的軌跡 著者：藤本 憲正 324頁 / A5判 / ソフトカバー 定価3,245円 (本体2,950円+税10%) ISBN 978-4-86693-013-8 C3016	冊
		発行：株式会社三恵社 TEL:052-915-5211 FAX:052-915-5019	

ご注文は JRCへ FAX:03-3294-2177

株式会社 JRC 経由で、すべての取り次ぎへの出荷が可能です。返品は長期にお受け致します。